

令和4年度第1回練馬区区政改革推進会議 議事概要

日 時	令和4年10月19日(水) 午後6時30分～8時30分
場 所	練馬区役所本庁舎5階 庁議室
次 第	1 委嘱式 2 議 題 (1) 「(仮称)改革ねりまプラン」の策定について (2) 区の現状と課題(区民協働・情報発信、DXの推進、人事・人材育成) (3) 練馬区版総合戦略 重要業績評価指標(KPI)および第2次みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン[年度別取組計画] 令和3年度末の進捗状況について 3 その他 4 閉 会
配付資料	資料1 区政改革推進会議設置要綱 資料2 令和4年度練馬区区政改革推進会議 委員名簿 資料3 「(仮称)改革ねりまプラン」の策定について 資料4 区の現状と課題(区民協働・情報発信) 資料5 区の現状と課題(DXの推進) 資料6 区の現状と課題(人事・人材育成) 資料7 練馬区版総合戦略 重要業績評価指標(KPI)および第2次みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン[年度別取組計画] 令和3年度末の進捗状況について 参考資料 区政改革推進会議の運営について
出席委員 (名簿記載順・敬称略)	庄司 昌彦、沼尾 波子、中田 亘伯留、相澤 愛、廣田 政一、西岡 恭史、吉田 美穂子
欠席委員 (敬称略)	上野 美知子、今田 裕子
区出席者	区 長 前川 耀男 副区長 小西 将雄 副区長 森田 泰子 教育長 堀 和夫 特別参与 山内 隆夫 専門調査員 斉藤 睦 企画部長(区政改革担当部長) 佐古田 充宏 総務部長 中田 淳 企画課長 佐川 広 区政改革担当課長 奥野 翔 財政課長 宮原 正量 情報政策課長 小沼 寛幸

人事戦略担当部長（職員課長）	小淵 雅実
区長室長	毛塚 久
地域文化部長	小金井 靖
教育振興部長	三浦 康彰
広聴広報課長	大木 裕子
秘書課長	西田 智史
人材育成課長	清水 優子
地域振興課長	臼井 素子
協働推進課長	榎本 雄太
生活福祉課長	渡邊 慎
教育振興部副参事	風間 浩也

1 委嘱式

(1) 区政改革推進会議委員委嘱

委員長の指名

副委員長の指名

(2) 区長挨拶

【区長】

皆さん、こんばんは。本日はお忙しいところ、区政改革推進会議に御出席頂き真に有難うございます。

日本は今、嘗てない危機的な状況にあります。世界の先頭を切って少子高齢化が進み、人口減少が加速しています。バブル崩壊後、長期にわたり経済が停滞する中で、コロナ禍とウクライナ侵略の直撃を受けました。国と地方を合わせた長期債務残高は1,200兆円を超え、GDPの2倍を超える世界に類を見ない状況となっています。経済状況も政治情勢も混沌としており、十分な説明もありません。にもかかわらず、国も地方も危機感が希薄で「ばら撒き」が横行している印象があります。

特別区にいたっては、財政調整制度があり財政に責任を負っていません。その中で、全国先頭を切って「ばら撒き」が行われています。このままでは、特別区が東京がそして日本がどうなってしまうのか、空恐ろしい気がしています。

このような状況にあって、人口74万人の自治体としてどう対応すべきか、極めて難しい問題です。私は、区長就任以来、「ばら撒き」は絶対にしない方針で、長期的に区民全体の利益を実現することを目標に頑張ってきました。コロナ禍にあっても目先の人気とりではなく、将来につながる施策を重点的・機動的に実施してきたつもりです。しかし、日本全体が危機的な状況にある中で、行政をどう進めればよいのか不透明な状況が続いています。

区政全体としてこうした問題意識を持って、職員は頑張ってくれていますが、行政の中だけで議論していても、なかなか面白いアイデアが出てきません。是非、区政改革推進会議で率直で活発な議論をして頂き、参考にさせて頂きたい。直面する課題は数多くありますが、今年度は、「区民協働」「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」「人事・

人材育成」の3つ課題について議論して頂くこととしました。それぞれのテーマごとに現状と課題をまとめた資料を用意していますが、行政視点になっているので、皆さんには、資料にとらわれず、本音で根本的な議論をお願いしたい。

今年度は、武蔵大学の庄司先生に委員長をお願いしています。先生はデジタル化が御専門で、昨年まで区政改革推進会議の副委員長として、会議をまとめて頂きました。副委員長には東洋大学の沼尾先生をお願いしています。先生は、地方財政論が御専門で特別区懇談会など審議会の委員を様々努めていらっしゃいます。お二人に議論をリードして頂きながら、自由闊達な議論をお願い申し上げます。

(3) 委員長挨拶

【委員長】

委員長に御指名をいただきました武蔵大学社会学部の庄司と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、社会のデジタル化に伴う変化について研究しながら、政府や東京都など、様々な自治体のデジタル化のお手伝いをしています。

日本の人口減少・高齢化の状況は年々進んでいます。こういう時こそ「ばら撒き」ではなく、将来を見通した投資をした方がいいのではないかと。あるいは、昔ながらのやり方を見直すのだったら、早いうちに見直した方がいいのではないかと考えて、いろいろと取り組んでおります。

ぜひ、練馬区の参考になるような面白く自由闊達な議論をできればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(4) 副委員長挨拶

【副委員長】

今、御紹介いただきました東洋大学の沼尾と申します。

私は地方財政論が専門でございまして、特に、地方分権改革を通じた、地方の税財政の在り方や地域の歳入歳出の自治などについて研究しています。

財政状況が厳しい中で、地方の自己決定権が国の方に集約されています。自分たちの地域をどう作っていくのか、積極的に頑張っている自治体となかなか厳しい自治体で、温度差があると感じています。その中でも、特別区は財政上の体力もあり、多様な住民の方がいます。自分たちの地域をどうやって作るか、積極的な議論が区ごとに行われていると感じています。

今回、初めて練馬区の会議に参加させていただくということで、大変楽しみに参りました。先ほど、ぜひ面白くというお話もありましたので、地域の課題について、積極的に、みんなで議論できたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

2 議題

【委員長】

それでは、2 議題に入ります。

最初に、事務局から配付資料の確認をお願いいたします。

【区政改革担当課長】

配布資料確認

【委員長】

続いて内容に移ります。

資料3（仮称）改革ねりまプランの策定について、事務局から説明をお願いいたします。

【区政改革担当課長】

資料3「（仮称）改革ねりまプラン」の策定について 説明

【委員長】

質問・不明な点がありましたら、お願いいたします。（意見なし）

それでは、次に（2）区の現状と課題に入ります。事務局から、資料4～6が示されております。

資料4 区の現状と課題（区民協働・情報発信）について、事務局から説明をお願いいたします。

【協働推進課長・広聴広報課長】

資料4 区の現状と課題（区民協働・情報発信） 説明

【委員長】

資料4、区の現状と課題（区民協働・情報発信）について、事務局から説明がありました。

皆様に御意見や御質問を伺いたいと思いますが、区民協働から、いかがでしょうか。

【委員】

簡単に自己紹介をさせていただきます。生まれも育ちも練馬で、父の代から練馬で洋菓子店を経営しています。また現在は、協働推進課の地域おこしプロジェクトの事業にも参加しております。直近では、大泉学園の和菓子・洋菓子店が一同に集まる大泉スイーツフェスタがあります。昨今、集まって何か事業を行うことが難しい状況のなかで、新しい出会いと新しい創造ができるのではないかと、楽しみにしています。

商人としては、区民の方たちが喜び、楽しんでいただけるような事業を目指したい。また、区から様々な助言を受けながら、区とともに成長、発展していくような協働を目指していきたいと思っています。

【委員長】

区から課題として、町会と自治会の担い手不足が挙げられていましたが、そういった新しい活動と町会・自治会と連携することはあるのでしょうか。

【委員】

まずは、新しい活動をする自分たち一人ひとりが取り組んでいくことが必要だと思っています。その後に、町会・自治会と連携を図っていければ良いと思っております。

【委員】

区ではこれまでに区民との協働という点について、いろいろな仕組みや制度ができていると感じています。したがって、今後は、制度や仕組みを新たに作り出すのではなく、今ある制度や仕組みにいかにか区民を巻き込むのかということが重要で、ハードからソフトに切り替える時期だと思います。

どのように巻き込んでいくか、私の身の回りでも、きっかけさえあれば地域活動をした人、個人でも経営者でも多くいます。そこで例えば、年に一度、区民に発送している健診の案内に「地域のために何かしませんか」みたいなチラシを入れる。特に、会社や一線を退く60歳・65歳という時期に該当する方には「これから地域で力を発揮しませんか」みたいな案内を一斉に配るなどはいかがでしょうか。

また、区民との協働というと、区と民間団体の協働の場面がメインでしたが、今後は、民間の団体同士をつなげる、コーディネートをする役割が、行政に非常に求められていると思うのです。地域課題を一番把握されている行政が、地域課題を提示し、興味を持つ団体同士をつなげる時期にきていると感じています。

資料4 15ページの新制度の課題設定型に、例えば「子どもの貧困」や「みどり」など課題を提示し、周知すると、手を挙げる人が出てくるのではないかなと思っています。何か練馬のためにしたいと思っている団体、経営者、企業も多いと思いますので、団体をつなぐ、コーディネート役をしていただくと良いと思います。

【協働推進課長】

地域活動のきっかけづくりや周知が必要だと認識しています。これまで、つながるフェスタをココネリ1か所で開催していましたが、昨年からは、より目に触れる機会を増やすために、6か所で開催しています。まだまだ足りない部分があるので、他部署と連携しながら、ご提案いただいたチラシや案内の検討をしていきたいと思っています。

また、課題設定型についてですが、区が団体同士をつなぐ役割も取り入れ、事業を組み立てていきたいと思っています。

【委員】

検診の際にチラシを同封するというのは一例なので、もっと効率的に経費をかけないで何かあれば検討していただければと思います。また、情報発信の議論にも絡みますが、やはり実際に区から届く紙ベースの情報も貴重だと思うので、申し上げさせていただきました。

【委員】

約10年前の話ですが、パワーアップカレッジ練馬に参加した方が、地域活動をしたいと思い、まず実行したことは、区報を隅から隅まで読んで、練馬を学んだことと仰っていました。約10年前の話なので、単純な比較はできないですが、紙媒体、文字の情報というのは、力があるのではないかと感じています。

区政情報の入手先に紙媒体が減少しているとのことですが、恐らく、新聞の購読数なども影響していると思います。そのような中でも、街かどに広報が置いてあるので、努力していただいていると私自身は感じております。

また、区民協働について。実際に、ボランティアをやってみると、メンバーが集まらない、場所が取れないなどの細かい悩みが出てきます。例えば、ボランティアで、上手くいかない問題について、知恵を出し合うイベントや話し合う場みたいなものがあつたらよいと思いますが、いかがでしょうか。

【協働推進課長】

区では、区民協働交流センターにて、さまざまな講座やワークショップを通して、活動されている団体の方々に役立つ情報を提供しています。

また、つながるカレッジ・つながるフェスタの卒業生や受講生の交流会も行っていますので、そういった場も活用しながら、いただいたご提案を検討していきたいと思っております。

【委員】

2つほど感じたことについて。

まず、資料4 P11の図表について「余暇時間を有意義に過ごしたいから」「活動を通じて友人や仲間を増やしたいから」が思ったよりも低く、本音が出ていないのではと感じました。社会貢献のために、ボランティアに参加したいという人は、時間が空いているから何かやりたいという人が多いと思うし、仲間を作りたいというのはかなり高い率だと私は思っています。

私自身、東京マラソンも参加し、東京マラソンのボランティアもやりました。そこで、東京マラソンのボランティアの人たちのありがたさが、いかに大事かというのを感じました。ボランティアの受け手の人が本当によかったと思えるボランティアの形が必要だと思っております。

次に、デジタルデバイドについて。若者はデジタルを使って、上手に情報発信・受信をするが、高齢者はなかなかできない。「デジタル」という言葉を聞いただけで何か近づきがたく、ますますデジタルから遠のいてしまう。そこではやはり行政が、デジタルデバイドに対する支援に取り組む必要があると思っております。

【広聴広報課長】

先ほど、区報のお話もありました。今後、SNSなどの発信力の強化だけでなく、区報などの紙媒体での発信にも工夫を凝らすなど、それぞれの広報媒体の特徴を活かしながら、情報発信をしていきたいと思っております。

デジタルデバイドについては、DXのテーマにて、情報政策課長から説明をいたします。

【委員】

つながるフェスタについて。昨年、私自身パワーアップカレッジねりまを卒業して、現在はその同窓会の会長をやらせていただいています。

協働推進課がポータルサイトで、団体の紹介をしていますが、同窓会でも団体のデータベースを作っています。そこで、協働推進課とパワーアップカレッジの同窓会のデータベースを活用して、同じような団体をマッチングできる仕組みができればよいと思います。

つぎに、DXの話になるかもしれませんが、デジタルデバインド・SNSについて。

私は光が丘でスマホ教室をやっています。練馬区公式アプリの紹介のチラシが、QRコードの読み方やアプリのインストール方法が学ぶことができ、役立っています。できれば、TwitterやFacebookなどのSNSも同じように、高齢者の方が馴染めるイメージがあると、教えるときに役に立つと思います。

【協働推進課長】

地域の現場では、デジタルデバインドを課題と感じて、スマホ教室を運営している団体も多くあります。また、区内高校のボランティア部が、町会の方向けにスマホ教室を行う取組もごさいます。協働推進課では、さまざまな情報発信をしながら、地域の活動が広がるような側面支援を行っていきたいと考えています。

【広聴広報課長】

TwitterやFacebook、イメージできるチラシづくり、こうしたものも「伝える」から「伝わる」の情報発信の転換だと思います。

区民の皆様と情報発信を一緒にすることを意識しながら、工夫を凝らして情報発信をしていきたいと思います。

【委員長】

それでは、次に、資料5、区の現状と課題（DXの推進）について事務局から説明をお願いいたします。

【情報政策課長】

資料5 区の現状と課題（DXの推進） 説明

【委員長】

それでは、今、御説明のありました資料5について、何か質問や御意見がある方はお願いいたします。いかがでしょうか。

【委員】

資料5 5ページのスマホ教室について。

定員に対して申込が多い理由としては、コロナ対策も一つに挙げられますが、個別的に教えるために定員数を少なくせざるを得ないことも理由に挙げられると思います。

私が、実際にスマホ教室の講師をしている敬老館では、敬老館職員の方にもサポートし

てもらって、6人が限界という状況です。定員数を増やすことは難しいので、スマホ教室の回数を増やし、様々な場所でできるようにするのが良いと感じます。

【委員長】

資料5 11ページで、「デジタルの得意な方が苦手な方を支援できるようにします」というのは、必要な取り組みだと思います。おそらく、高齢者の友達同士の教え合いも含めていると思いますが、この辺りはいかがでしょうか。

【情報政策課長】

委員長が言われた「得意な方が苦手な方を支援する」という点は、行政側でも体制を用意する必要があると思います。一方で、行政だけでは対応しきれないことがあるので、スマホ教室を受講した人がスマホに不慣れな人を教える仕組みなど、協働の観点も踏まえて、より効果的な体制を検討していきたいと考えています。

【委員】

高齢者の方に対して、どこまで行政側が教えるかというのは、本当に難しいと思います。スマホというのは、個人の楽しみのために使うものでもあったりするので、行政側が使い方を万全に教える必要も本来ないと思います。

SNSやLINEを登録し、情報の受信にとどめるのであれば、さほど難しくないとと思いますが、具体的な申請を検索し、さまざまな手続きをすることを到達点にすると難しいと率直に思います。そういう方は窓口に来庁したほうが早いと思います。

行政側としては、高齢者がスマホを使って、どういう利用ができるところまでを目標・到達点に描いているのでしょうか。

【情報政策課長】

スマホからオンラインで手続きができることは必要なことだと思います。例えば、銀行や保険など民間の手続きではオンライン手続きが当たり前になっています。行政の手続きも同じようにオンライン化する必要があると思います。

併せて、フィッシング詐欺や個人情報の漏えいなどのリスクもあるので、セキュリティ対策の支援も必要だと思います。

具体的な目標の到達点について、現時点でお示しすることはできないですが、今後、ニーズを整理しながら取り組んでいく必要があると考えています。

【委員】

オンラインで手続きをするものは、具体的にどのような手続きを想定していますか。

【企画部長】

例えば、コロナウイルスのワクチン予約の際、オンラインでの手続きをメインにしましたが、高齢者の方々は、オンライン予約の画面までたどり着かないことがありました。また、オンラインと併用で、自動音声による電話での予約手続きを用意しましたが、それ

でも予約ができない方が多くいらっしゃいました。オンラインの時代になりつつあって、デジタルデバイドを感じた場面でした。

一つの例としては、今申し上げたワクチン予約のオンライン手続きがスムーズにできることなどを考えています。

【森田副区長】

以前、庄司委員長に台湾のオードリー・タンさんのお話をさせていただきました。高齢者の方がどうしたらオンラインの手続きができるようになるのか。台湾でマスクを配るときには、実際に高齢者の方にやっていただきながらサービスの確認・設計をした。そのような高齢者の方が簡単にできるオンライン手続きも必要だと思います。

一方で、直接いろいろと相談しながら手続きをしたいニーズもあると思います。銀行では、タブレットを活用することで、ほとんど文字を書かず、職員と一緒に相談しながら手続きができます。

イメージ的には、オンラインでもできる簡単なサービスの提供もするし、いろいろ相談しながら手続きをしたい人には、タブレットなどを使って、手順を分かりやすく素早くできるようにしたい。それが目指す姿だと考えています。

【小西副区長】

先ほど、区報が役に立つという、ありがたいお言葉をいただきました。しかし、10日に1回、月3回しかないので、タイムリーな話題が出しづらい媒体だと思います。

災害で言えば、防災無線を流すだけでなく、区のホームページで防災無線の内容を文字で見られるようにしています。そういうタイムリーな情報が入手できることは最低限必要だと思っています。また、オンライン化が馴染む手続きと馴染まない手続きがあるので、目標については、今後考えていかななくてはならない課題だと思います。

【委員長】

私も専門家なので言うと、オンライン手続きができる人には、積極的にオンライン手続きをしてもらい、窓口の混雑をなくして効率化する。また、オンラインの手続きは、銀行のATMのように誰でもできるような簡単なものに、スマホサイト、行政の言葉もなるべく簡単なものしていく必要があると思います。

違う話題になるのですが、資料5 9ページの業務改革について。AIやRPAなどの導入が一部の業務にとどまっている理由は何なのでしょう。

というのは、私がお手伝いしている別の区では、デジタルツールの導入を提案したところ、あまり手が挙がらなかったと聞いています。なぜかというと、デジタルツールを導入し、作業時間が減少したら、予算や人員を減らすように見えてしまったと。そうならないか気になるので、一部の業務にとどまっている理由について伺えればと思います。

【情報政策課長】

一部の業務にとどまっている理由については、どのような業務に適合するか、取組の効果測定を行っていたことやライセンス数の問題もあり、要望のあった業務にツールを導入

できない状況にあったためです。今後は、ライセンスを全庁的に活用できるように変更し、様々な業務に展開していく方針です。

【委員】

他の委員が仰っていた、行政として、どこに到達点を求めるのかという点について。

先ほど、私が紹介した、練馬区公式アプリの紹介のチラシのようなものを作るのがいいと思います。行政が求めている手続きに、QRコードを記載してもらえると、サポートしやすいので、お願いできればと思います。

【委員】

話題が情報発信のところに戻ってしまうのですが、資料4 29ページ(1)に若年層へのヒアリングを行うなどの旨があります。若年層のヒアリングは若年層の意見であって、年代によって、伝わり方は変わると思いますので、さまざまな年代からヒアリングした方がよいと思います。

つぎに、これは私の感想なのですが、資料5 P9業務の改革で、短縮できた作業時間が驚く数字でした。これだけ削減できるのであれば、積極的に業務に活用して、職員にしかできない企画などに注力してもらえると良いと思いました。

【委員長】

それでは、次に資料6に移ります。

資料6、区の現状と課題(人事・人材育成)について、事務局から説明をお願いいたします。

【人事戦略担当部長】

資料6 区の現状と課題(人事・人材育成) 説明

【委員長】

それでは、御説明のありました資料6について、質問や御意見がありましたら、お願いいたします。

【委員】

2点質問があります。

昨今、民間企業に限らず、総合型からジョブ型の傾向があると思います。ジョブ型の方は、管理職を希望せず、自分の専門分野を伸ばして、キャリア形成をやっていきたいという人が多いと思います。中途採用した際のジョブ型の割合と人事配置について教えてください。

つぎに、人事研修制度について。研修とは、社員のキャリアアップ・キャリア形成を向上させるためものだと思います。また、研修には二つの軸「社内のためのキャリア形成」と「社員個人のためのキャリア形成」があると思います。そのような軸を人事としては、どのように捉えているのか、分かれば教えてください。

【人事戦略担当部長】

これまで役所は、ジェネラリストを生んできた、ジョブ型という形では人事政策をやってきていませんでした。ただ、今、行政はどの分野でも複雑化していますので、それぞれの専門性を高めなければいけない、そのような問題意識を持っております。

また、経験者職員に関して、押しなべていえることは、ICTを経験した職員が多いことだと思います。そこで、ICTの知識・経験、スキルを活かせるよう、各部に専門人材として活用している傾向にあります。

それから、2点目の研修に関して。複雑化する問題に対応できるよう、役所内研修に加え、外部の専門機関に研修を委託しています。研修を受け、役所内で活躍する職員もおりますし、転職する職員がいることも事実でございます。日本社会全体として雇用の流動性が進んでいることも一因だと思いますが、我々としては一生懸命に職員を育てて、職員の専門性を高めていきたいと思っております。

【委員】

今後、中間管理職を担う職員が退職することに対して、中途採用を増やしていくと。しかし、民間経験者でジョブ型の方は、管理職などのマネジメントではなく、自分の専門分野を行政に活かしたい人だと思います。その矛盾を人事としては、どのように考えていますか。

【人事戦略担当部長】

難しい問題だと思います。例えば、今朝の日経新聞に「活躍の場が与えられない会社は社員が逃げていく」という記事がありました。

それが、イコール役所に適用するかは分かりませんが、組織で仕事をしていますので、区長一人で組織が回るわけではございません。部長・課長・係長が必要になりますので、中間管理職を含め、輝く管理職の姿を職員に見せながら取り組んでいきたいと思っております。

【副委員長】

人事の問題が難しいと感じるのは、23区は特別区一括採用のため、練馬区だけで自由にできない点です。その中で何がやれるのだろうかと思いながら話を聞いていました。今は大学でも、一人ひとりの特性を活かしたキャリアプランの作成について考えています。2つのタイプがあって「周りの人とバランスを取りながら仕事をするタイプ」と「特定のスキルや専門分野で、一人で突き詰めて仕事をするタイプ」があると思います。そういう意味で、一人ひとり職員のキャリアアップも大事ですが、職員の特性に合わせた適正配置ということも必要だと思います。

例えば、同じ税務課で配属されても、窓口が向いている方もいれば、税の計算を突き詰めるのが向いている方もいると思います。ジェネラリストという話もありましたが、バランスを取りながら、職場に配属し、それぞれの強みを活かし、その強みを上手くチームとして、パズルのピースを埋めるように、完成させるかが問われていると思います。

また、職員の副業・兼業に関して。例えば、自治体の職員でも、副業・兼業の基準を明確にしたうえで、地域でコミュニティビジネスを始めるような動きも出てきています。神

戸市は先進的で、地域参加することを兼業で認める制度を作り、全国的にも注目が集まっています。

今後、練馬区が働き方の柔軟性をどのように考えていくのか、特別区全体の人事制度との兼ね合いも踏まえながら、問われると思います。例えば、地域で副業・兼業することで地域協働を担う人材に力を入れるという考え方もあります。さまざまな課題はありますが、ビジョンとして、そういう考え方もあると思います。

【委員長】

それでは、続きまして、(3)練馬区版総合戦略 重要業績評価指標(KPI)および第2次みどりの風吹くまちビジョン、アクションプラン[年度別取組計画]令和3年度末の進捗状況について報告があります。事務局から資料7が示されていますので、資料7の御説明をお願いします。

【企画課長】

資料7 練馬区版総合戦略 重要業績評価指標(KPI)および第2次みどりの風吹くまちビジョン アクションプラン[年度別取組計画]令和3年度末の進捗状況について 説明

【委員長】

今回は令和3年度末の進捗状況の報告とのことですが、何か質問や御意見があれば、いかがでしょうか。

【委員】

まず、KPIの評価指標は、重要ですので、今後も継続していただきたいと私は思っています。

質問ですが、令和3年度のB評価に関して、コロナ感染の影響を受けたものが大きいと記載されています。コロナ以前で、近い年度のA+、A、Bの内訳というのが分かれば教えてください。

【区政改革担当課長】

KPIは、3年後の目標を立てているため、前の年度の取組成果というのはありません。トータルでこの評価になったと、ご理解頂ければと思います。

【企画課長】

アクションプランに関して。前回3年前に評価したときと比べ、A+、Aとなったものが10%~15%ほど多い状況です。ただ、その場合でも、相手との交渉が必要な事業については、時代にかかわらずBという評価はあります。

【委員長】

昨年度の会議でも申し上げましたが、KPIの中身を細かく見ますと、実施、検討、拡大など非常に定性的な言葉が多く、KPIというには、適当ではないのではないかと感じてお

ります。その点は、ぜひ改善に向けて御検討いただければと思います。

それでは、終了時刻となりましたので、本日の推進会議を終了いたします。ありがとうございました。